

鞆港埋め立て架橋計画 撤回・中止しかありません

12月定例会市議会の論戦ではっきりしました 日本共産党 福山市議団

埋め立て架橋建設で

「新たな利益」わずか「年2億円余」

市は、架橋を建設した場合としない場合との差を貨幣換算。自動車走行時間の短縮効果、燃料等の節減効果、交通事故減少による社会的損失費用の減少効果等で、「40年間で90億円」と試算。

しかし!! **ポニョの故郷 美しい景観**
世界的に希少な中世港湾遺構

破壊

福山市の試算では、埋め立て架橋で得られる「新たな利益」はわずか年2億円余（90億円÷40年間）。美しい景観と歴史的遺構を守り生かした方が50倍以上の価値を生み出します。

国が将来交通量推計を下方修正

国は、将来の自動車交通量の推計値を、2005年に比べ2030年には2・6%減と下方修正しました。

福山市は、埋め立て架橋によって「得られる利益」の値が、「今後変更される」と答弁。計画の費用対効果は、現在1・7としていますが、国の見直しで、約1・2まで下がると見込まれます。計算には、埋立て架橋で失われる「観光利益」は含まれていません。

今のままで **鞆の浦** は 毎年109億円 観光利益



市民の力で魅力再発見、鞆ファンは急増。

守り生かそう

12月市議会で明らかになった事

鞆の浦の景観を破壊し、港を埋め立て、どれだけの利益が得られるのか。これまで県と市は、貴重な景観を破壊してまで事業を進める理由として、「景観を壊しても得られる利益がある」と強弁してきました。

今でも観光利益は年109億円

「埋め立てによって得られる利益の試算を示せ」と迫りました。福山市は、「得られる利益は40年間で90億円。建設事業費は53億円」と答弁。

「観光で得られる利益は？」の質問に、福山市は「現在、年間109億円。観光客数171万2千人」と答えました。

埋め立て架橋では年2億円

福山市の試算では、埋め立て架橋で得られる「新たな利益」はわずか年2億円余（90億円÷40年間）。美しい景観と歴史的遺構を守り生かした方が50倍以上の価値を生み出します。

鞆の浦―万葉の時代から大陸との交易などで「潮待ち」の港として栄え、港からの美しい景観と中世の港湾施設、まちなみが保存されています。

広島県と福山市は、港の埋め立て免許の認可を国に申請しました。申請書類が不十分で国の認可は下りていません。

市は計画が必要な根拠を示せず

質問では、福山市が、景観破壊により失われる利益が、計画で得られる利益を

「鞆の浦を壊さないで！」―多くの市民、日本と世界の学者、文化人らが声をあげています。

日本共産党市議団は12月定例会市議会で、羽田市長の姿勢を厳しく追及。埋め立て架橋計画に全く道理が無いことが明らかになりました。

上回ることを証明できないことが浮きぼりになりました。